令和元年度マダイ中間育成・放流結果

今年のマダイ中間育成は、網代で6月5日、田子で6月6日に、種苗を海上生簀に搬入する沖出しを以て開始されました。両地区の沖出し尾数は、網代が40.5万尾、田子22.5万尾と計画通りで、例年通り沼津の温水利用研究センターから種苗が供給されました。沖出し後の種苗はおよそ50日の飼育期間を経て、放流目標サイズの尾叉長60mmを超えたため、網代で7月18日、田子で7月24日に放流尾数を確認する計数作業が行われました。

田子の計数作業の様子

マダイ中間育成の歩留り目標は、第7次静岡県栽培基本計画で66%とされています。昨年は、沖出し当日からの給餌、早朝の給餌、また餌の量そのものを増やすなど、飼育方法の改善に取り組みました。その効果もあってか、田子では5年ぶり、網代では8年ぶりに歩留り目標を達成することができました。両地区の飼育担当者は、今年も高い歩留まりをとの思いから、昨年の取り組みを継続し、日々の飼育にあたりました。計数時には、2年連続の歩留り達成に大きな期待がかかりました。

表1に両地区の中間育成の結果を示しました。歩留りは、網代が75.4%、田子が84.3%と2年連続で目標を大きく上回ることが出来ました。網代では、沖出し直後の大雨の影響で生簀全体を覆う赤潮が発生、さらにその後、種苗が弱ったところにビブリオ病と滑走細菌症の混合感染が発生しました。しかし、飼育担当者による早期発見と迅速な投薬、網替えの対応により、大きな被害には至りませんでした。赤潮、病気と、始めこそは先行きが不安だったものの、水温の上昇とともに種苗の状

態は安定し、その後は順調に成長しました。田子では、沖出し時の体長が小さかったためか、輸送および搬入時にやや斃死が見られました。しかしその後は、赤潮、病気などの発生は一切なく、順調に成長しました。

田子では、歩留まりが高かった一方で、新たな課題が明らかになりました。それは、中間育成の終盤に、少ないながらも毎日斃死が見られたことです。斃死魚を確認すると、成長の悪い小さな個体であり、突かれた痕がありました。歩留りが非常に高かったために、中間育成の終盤に生簀内の収容密度が高くなり、魚同士の突き合いが増加した可能性が考えられました。年によって、計数や放流が遅くなってしまうことがありますが、目標サイズを上回った後には、可能な限り早い放流が得策だと思われます。

伊豆地域の放流尾数は、網代から30.5万尾、田子から約18.9万尾となり、各地区の放流尾数は表1の通りになりました。県内のいくつかの地先では、港内が放流場所となっています。これは港内が、水深の浅く、波浪の穏やかな海域であり、放流直後の減耗を低く抑えることができる放流適地と考えられているからです。港内で小型のマダイが釣れた際には、海へ再度放流をしていただくようお願いします。

表1　令和元年度マダイ中間育成・放流結果

		網代			田子		
沖出し	月 日		6/5			6/6	
	尾数(尾)		405,000			225,000	
	平均全長(mm)		26.0			24.4	
	生簀数(面)		16			8	
計数	月 日		7/18			7/24	
	尾数(尾)		305,400			189,600	
	生残率(%)		75.4			84.3	
	平均尾叉長(mm)		70.3			64.1	
放流		場所	月日	尾数	場所	月日	尾数
		初島	7/30	3,900	南伊豆	8/6	42,000
		大熱海	7/30	15,400	松崎	7/24	15,200
		網代	7/29	89,600	仁科	7/24	48,700
		宇佐美	7/30	23,500	田子	7/24	47,300
		伊東	7/30	78,500	安良里	7/24	13,300
		川奈・富戸	7/30	17,400	土肥	7/24	23,100
		稲取・河津	7/29	30,000			
		下田	8/7	47,100			

(鈴木聡志)